

日本分析化学会次期会長 候補者選挙結果について

日本分析化学会理事会

本会社員（代議員）による次期会長（2025～2026年度、任期2年）選挙の投票は12月2日に役員等候補者推薦委員会委員長の立会で開票が行われました。その結果、山本博之氏が最高得票を得て、次期会長予定者に出選されましたので、ご報告いたします。

山本博之（やまもとひろゆき）先生（国研）量子科学技術研究開発機構高崎量子技術基盤研究所・副所長
（本会役員・委員の経歴）

2007～2010, 2015～2016, 2018年度
関東支部常任幹事
2009～2013年度 「Analytical Sciences」誌
編集委員
2019～2020年度 関東支部副支部長
2020年度～ X線分析研究懇談会運営委員
2021年度 関東支部長
2021年度～ 理事
2022年度 第82回分析化学討論会
実行委員長
2022年度～ 関東支部参与
2023年度 筆頭副会長
2023年度～ 会長

善木道雄先生 瑞宝中綬章受章報告

善木道雄岡山理科大学名誉教授は令和6年度秋の叙勲において瑞宝中綬章を受章されました。

永年にわたるフローインジェクション分析法（FIA）や水溶性アゾ化合物を用いる分析試薬の研究、岡山理科大学における蒜山研究所長など、地域に根差した研究および化学実験教室や講演会などを通して子供たちに科学の面白さを伝える教育などが認められたものです。特に試薬溶液をリサイクルする循環式FIAの研究では、日本分析化学会フローインジェクション分析研究懇談会から平成13年度FIA学術賞、平成18年度FIA論文賞を授与され、現在のSDGsに先駆けて地球環境に配慮された研究が行われました。

日本分析化学会においても中国四国支部で支部長などを務められ、平成21年度には学会功労賞を受賞されるなどの多くの貢献をなされました。

善木先生の受章は日本分析化学会や研究室の卒業生にとって大変名誉なこととなりました。

〈山本会長より下記のコメントをいただいております〉

善木先生のこの度のご受章、心よりお慶び申し上げます。フローインジェクション等にかかる永年のご研究とともに、教育活動へのご貢献が認められたものと思います。おめでとうございます。今後とも日本分析化学会の活動に大所高所よりご指導いただければ幸いです。

第405回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催（公社）日本分析化学会・液体クロマトグラフィー（LC）研究懇談会

後援（公社）日本薬学会（申請中）、（公社）日本化学会、（公社）日本農芸化学会、（公社）日本分析化学会

脂質や界面活性剤類の分析は、異なる炭素鎖長・不飽和度を有する混合物分離が必要となる場合が多く、分離手法が重要となります。たとえば油脂の分析においては、汎用的なODS固定相より、C30などの長鎖固定相を選択したほうが、構造類似混合物分離に優れる場合があります。本例会では、脂質や界面活性剤を対象物とした、構造類似混合物の分離に関してご講演いただきます。

期日 2025年3月27日（木）13.00～17.00

会場（株）日立ハイテクサイエンス サイエンスソリューションラボ東京〔東京都中央区新富2-15-5 RBM築地ビル、交通：東京メトロ有楽町線「新富町」駅より徒歩1分（5番出口利用）、東京メトロ日比谷線「築地」駅より徒歩4分（4番出口利用）、JR京葉線、東京メトロ日比谷線「八丁堀」駅より徒歩8分（A3出口利用）
<https://www.google.com/maps/search/?api=1&query=35.671216%2C139.775152>

講演主題 脂質・界面活性剤類の分析～構造類似混合物分離へのアプローチ～

講演

講演主題概説（オーガナイザー）（13.00～13.05）
（株）北浜製作所 井上剛史
（LC分析士三段）

1. 界面活性剤を含む試料の前処理方法（13.05～13.30）
（ジールサイエンス（株））太田茂徳
（LC分析士二段）
2. C22などODSより長鎖な固定相における脂質類の分離挙動（13.30～13.55）
（株）北浜製作所 井上剛史
（LC分析士三段）

3. C30固定相の分離特性：C18固定相との相違・脂溶性化合物の保持について（13.55～14.20）
（株）クロマニックテクノロジーズ 長江徳和
（LC分析士二段）

4. SFCを用いた脂質、界面活性剤分析（14.20～14.55）
（株）島津製作所 寺田英敏
（LC分析士二段）

休憩（14.55～15.10）

5. 超臨界流体クロマトグラフィーによる界面活性剤の精密分離（15.10～15.40）
（花王（株））森内章博
（LC分析士二段、LC/MS分析士初段）

6. 構造類似混合物の分離分析手法（15.40～16.05）
（東ソー（株））伊藤誠治
（LC分析士五段、LC/MS分析士二段）

7. マススペクトルによる構造異性体解析（16.05～16.30）
（エムエス・ソリューションズ（株））高橋 豊
（LC分析士二段、LC/MS分析士五段）

8. 総括「脂質・界面活性剤におけるHPLC分析」（16.30～17.00）
（東京理科大学）中村 洋
（LCマイスター、LC/MSマイスター）

参加費 ①学生：1,000円、②LC懇・個人会員：2,000円、③LC懇・団体会員：3,000円、④後援学会・個人会員：4,000円、⑤後援学会・団体会員：4,500円、⑥その他：5,000円。参加申込締切後の受付はできませんので、ご了承ください。

情報交換会 終了後、講師を囲んで情報交換会を開催します（会費5,000円）。参加申込締切後のご参加はできませんので、ご了承ください。

申込締切日 2025年3月12日（水）（入金締切時刻：15時まで）

申込方法

1. 参加希望者は、下記申込先にアクセスし、氏名、勤務先（電話番号）、LC研究懇談会・個人会員、協賛学会・個人会員、その他の別および情報交換会参加の有無を明記のうえ、お申込みください。なお、参加者名と振込者名が違う場合は、参加申込書の連絡事項欄に振込者名を明記してください。
2. お申込みが完了した場合には、登録されたアドレス欄に「第405回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付（自動返信）」のメールが届きます。メールが届かない場合は、世話人までお問い合わせください。
3. 申込み受付のメールを受領後、必ず期限内に研究懇談会参加費、情報交換会費の納入を行ってください。期限内に納入が確認できない場合、お申込みを無効とし参加URLを発行しませんので、十分ご注意ください。当日払いは受け付けません。なお、いったん納入された参加費は、返金いたしません。
4. 参加費の納入が確認できた方には、2025年3月20日以降に要旨集をメールにてお送りいたします。必要に応じてプリントアウトしてご参加ください。また、請求書の発行はいたしておりません。

液体クロマトグラフィー研究懇談会（例会）参加費送金時のご注意

例会参加費、情報交換会費を送金される場合、下記を禁止しておりますので、ご理解のほどよろしく願いいたします。

1. 複数例会の参加費の同時振込
（→例会ごとに振り込んでください）
2. 複数参加者の参加費の同時振込
（→参加者ごとに振り込んでください）
3. 年会費や他の費用との合算振込
（→費目ごとに振り込んでください）

申込先 <https://forms.gle/he5BjWF2q8Bbr9Lp7>

（学生申込者は、所属欄に大学名、学部、学年を記載）

銀行送金先 りそな銀行五反田支店（普通）1754341、口座名義：シヤ）ニホンブンセキカガクカイ〔公益社団法人日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会〕

問合せ先（公社）日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会 世話人（株）北浜製作所 井上剛史
〔E-mail：inout@kitahama.co.jp〕

2025年度第1回近畿支部講演会

主催（公社）日本分析化学会近畿支部、近畿分析技術研究懇談会

期日 2025年4月18日（金）15.00～17.00

会場 大阪科学技術センター7階700号室〔大阪市西区鞆本町1-8-4、電話：06-6443-5324、交通：地下鉄四つ橋線「本町」駅下車、北へ徒歩約7分。うつほ公園北詰〕

講演

1. 相分離混相流の発見と学術および技術的体系化
—その道程と今の取り組み—
(15.00～16.00)
(同志社大学) 塚越一彦
2. 放射光軟X線分光計測技術の開拓と分析科学
(16.00～17.00)
(兵庫県立大学) 村松康司

参加費 無料

参加申込 標記行事名を題記し、(1)氏名、(2)勤務先（所属）、(3)連絡先を記入のうえ、下記申込先へFAXまたはE-mailにてお申し込みください。なお、参加証は発行いたしませんので、当日は直接会場にお越しください。

申込先 〒550-0004 大阪市西区鞆本町1-8-4（公社）日本分析化学会近畿支部〔電話：06-6441-5531、FAX：06-6443-6685、E-mail：mail@bunkin.org〕
※詳細は、近畿支部ホームページ（<http://www.bunkin.org/>）にてご確認ください。

2025年度液体クロマトグラフィー（LC）分析士二段認証試験実施のお知らせ

標記につき、下記要領で実施する予定ですのでお知らせいたします。各会場へのお問い合わせは、ご遠慮ください。

期日 2025年6月6日（金）14時～16時

会場（株）島津製作所東京支社〔東京都千代田区神田錦町1-3、交通：都営新宿線「小川町」駅、東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅、東京メトロ丸の内線「淡路町」駅のB7出口より徒歩6分、東京メトロ銀座線「神田」駅より徒歩10分、JR「神田」駅西口より徒歩10分。〕

<https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/company/access/tokyo.html>

二段資格のイメージ 各種分析士に共通するものとして、「手順書、作業マニュアル、規格を見れば、自分で計画して業務を遂行できるレベル。当該分析・測定技術に関連する物理、化学、生物、電気、機械等の基礎知識を有し、装置等の日常点検、保守等も行える。」と規格されます。液体クロマトグラフィー分析士においては「HPLC装置とそれぞれのパーツの内容や原理の理解が十分にある。HPLCを用いた試験について、正確な操作を行うことができる。簡単な部品の交換が自分でできる。」ことが求められます。なお、試験問題としては科学の各分野並びに化学・分析化学一般に関する知識を問う内容が約40%含まれます。

受験料 7,700円（合格者は登録料4,400円を別途申し受けます）。請求書の発行はいたしません。入金確認後、受験番号をお知らせします。

受験資格 受験できる方はこれまでに行われた液体クロマトグラフィー分析士初段試験に合格し、登録された方に限ります。

申込方法 受験料の銀行振込後、専用ホームページ（<https://forms.gle/2E4PFiLjU9kuD71k7>）にアクセスして必要事項を入力してください。

申込締切 5月26日（月）15時。会場に定員制限がありますので、入金順に受験番号を発行します。

振込銀行口座 りそな銀行五反田支店普通預金0802349、口座名義：公益社団法人日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会（シヤ）ニホンブンセキカガクカイエキタイクマトグラフィー。一度お振り込みいただいた受験料は返却しません。万一、コロナ禍等で試験が中止された場合には、次回の受験料を免除します。

問合せ先（公社）日本分析化学会・LC研究懇談会・分析士認証専門部会〔E-mail：lckonkanri@gmail.com〕

—以下の各件は本会が共催・協賛・
後援等をする行事です—

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

2024 年度ガラス表面・分析研究討論会
構造解析・化学状態分析技術の活用

主催 日本セラミックス協会ガラス部会表面・分析分科会
期日 2025年2月14日(金)
会場 日本セラミックス協会 会議室
ホームページ
https://www.ceramic.or.jp/bglass/index_j.html#2024_characterization
連絡先 〒520-8639 滋賀県大津市晴嵐 2-7-1 日本電気硝子(株)研究開発本部評価部 姫井裕助
[E-mail: yhimei@neg.co.jp]

第 19 回大環状分子及び超分子化学国際会議
19th International Symposium on Macrocyclic and
Supramolecular Chemistry 2025

主催 ISMSC2025 組織委員会
期日 2025年5月25日(日)~30日(金)
会場 ロームシアター京都・みやこめっせ
ホームページ <https://www.ismsc2025.com/>
連絡先 実行委員長 生越友樹(京都大学・金沢大学)
[E-mail: ismsc2025@jtb.com]

電子機器トータルソリューション展 2025

主催 (一社)日本電子回路工業会
期日 2025年6月4日(水)~6日(金)
会場 東京ビッグサイト東展示棟
ホームページ
<https://www.jpccashow.com/show2025/index.html>
連絡先 (株)ジェーシーエス・コミュニケーションズ内 運営事務局 [電話: 03-5931-0039, E-mail: jpcashow@jcs-c.com]

日本顕微鏡学会第 81 回学術講演会
顕微鏡が導く「気付き」, 「繋がり」, 「挑戦」

主催 (公社)日本顕微鏡学会
期日 2025年6月9日(月)~11日(水)
会場 福岡国際会議場
ホームページ
<https://conference.wdc-jp.com/microscopy/conf2025/index.html>
連絡先 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-21-13 廣池ビルディング 402 (公社)日本顕微鏡学会事務局 崔 由美
[電話: 03-6457-5156, E-mail: jsm-post@microscopy.or.jp]

**環境工学ワークショップ 2025/
環境工学総合シンポジウム 2025
(IWEE2025 & 2025SEE)**

**International Workshop on Environmental
Engineering 2025 (IWEE2025 & 2025SEE)**

主催 (一社)日本機械学会
期日 2025年7月18日(金)~21日(月)
会場 北見工業大学
ホームページ
<https://www.jsme.or.jp/env/iwec/2025/>
連絡先 IWEE2025 & 2025SEE 実行委員会
[E-mail: env-symp2025@jsme.or.jp]

**第 41 回シクロデキストリンシンポジウム・
第 12 回アジアシクロデキストリン国際会議
(合同開催)**

**12th Asian Cyclodextrin Conference in
Conjunction with the 41st
National Cyclodextrin Symposium, Japan**

主催 シクロデキストリン学会
期日 2025年11月7日(金)~10日(月)
会場 同志社大学今出川キャンパス
ホームページ <https://www.acc2025.org/>
連絡先 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-1 大阪大学大学院工学研究科 応用化学専攻 重光 孟 [電話: 06-6879-7922, E-mail: shigemitsu@chem.eng.osaka-u.ac.jp]

**「分析化学」特集
“拡がる！分析化学と溶液化学の境界”
の論文募集**

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、溶液反応化学研究懇談会と共同で「拡がる！分析化学と溶液化学の境界」特集を企画しました。溶液化学の研究は、電気化学や錯体化学はもちろんのこと、クラスターや化学反応を解明する分子科学やイオン液体や超臨界流体などの応用が期待されている工学的分野など、多くの分野と密接に関係しています。本特集号では、更なる拡がりを見せている溶液化学と分析化学の境界領域における最新の研究に関する論文の投稿をお待ちしています。詳細はホームページをご確認ください。

特集論文申込締切: 2025年2月21日(金)

特集論文原稿締切: 2025年4月18日(金)

**初めて書く論文は母語の日本語で！
“第 24 回初執筆論文特集” 募集のお知らせ**

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、2025年(第74巻)に企画しております第24回「若手研究者の初論文特集」の特集名称を変更し、第24回「初執筆論文特集」として原稿を募集いたします。卒研究生、修士・博士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究成果を日本語で投稿できるよい機会です。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て掲載に

り次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿ください。
なお、詳細は「分析化学」誌 HP をご参照ください。

「分析化学」年間特集「環」論文募集

「分析化学」編集委員会

2025年は「環」をテーマとすることと致しました。

本特集では「環」をキーワードとして、基礎・応用を含めた分析化学の“最新の知見”はもちろん、総合論文や分析化学総説といった形で現在の分析化学の“研究の背景”についても広く募集し、分析化学が担う役割を社会に向けて発信することを目的としています。国内外、産学官を問わず、「環」にかかわる分析化学の研究・開発に従事されている多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。なお、詳細は「分析化学」誌の12号及びホームページをご参照ください。

特集論文原稿締切：2025年4月25日（金）（第3期）

「お知らせ」欄原稿について

支部並びに研究懇談会の役員の皆様：掲載用の原稿ファイルをどうぞ電子メールでお送りください。送り先はshomu@jsac.or.jpです。原稿の長さには制限はありませんが原稿締切日は掲載月の前々月25日（例：1月号掲載→11月25日締切）となっておりますのでご注意ください。

本会外から掲載をご希望の場合は以下をご参照ください。

- 1) 掲載できるものは本会が共催、協賛、後援するものに限られます。
- 2) 国際会議につきましては共催、協賛、後援申請に関する規程並びにフォームがありますので、ホームページをご覧ください。か、本会事務局長宛にお問い合わせください。
- 3) 国際会議以外の講演会等に関しましては、会名、会場、主催団体名、同代表者名、開始期日、終了期日、連絡先並びに同電子メールを記載のうえ、書面でお申し出ください。
- 4) 掲載原稿の作成要領に関しましては承諾をご返事する際にお知らせします。
- 5) 本会支部または研究懇談会が共催、協賛、後援を承諾した事業につきましては、その旨をメールにお書きいただき、原稿ファイルをshomu@jsac.or.jpにお送りください。

国際会議以外の共催、協賛、後援に関する規程抜粋（共催）

8. 討論会、講演会等の共催とは、その討論会、講演会等の開催について、本会は主体性を持たず、会誌等を通じて広報活動等の援助を行う場合をいう。
9. 本会が討論会、講演会等を共催する場合は、その討論会、講演会等の主要議題が本会の専門分野と関連を持ち、本会正会員が会議の準備、運営等の委員に若干名加わることを条件とする。
10. 本会が共催する討論会、講演会等に対しては、他学協会長等の申し出によって会誌等による広報活動の援助を行う。特に理事会の承認を得て分担金を支出することがある。（後援又は協賛）
11. 討論会、講演会等の後援又は協賛とは、本会がその討論会、講演会等の開催に賛同し、後援又は協賛団体の一つとして、本会名義の使用を認める場合をいう。
12. 本会が討論会、講演会等を後援又は協賛する場合は、その討論会又は講演会が分析化学に関連を持ち、その開催が

本会会員にとっても有意義であることを条件とする。

13. 本会が後援又は協賛する討論会、講演会等に対しては、希望に応じ会誌等による広報活動の援助を行うことがある。

ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

『ぶんせき』編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといっても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると共に、手法や操作に関する知識・技能を身に付ける必要があると考えます。

このような背景に鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考えており、これらに関する企業技術を論じた記事を掲載することといたしました。また、分析機器や分析手法の利用・応用における注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野における研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております。

記

1. 記事の題目：「技術紹介」
2. 対象：以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解説記事
 - 1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、
 - 2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、
 - 3) 分析機器および分析手法の応用例、
 - 4) 分析に必要な試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説、
 - 5) 前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、
 - 6) その他、分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など
3. 新規性：本記事の内容に関しては、新規性は一切問いません。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技術に関わるもので構いません。また、社会的要求が高いテーマや関連技術については、データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません。
4. お問い合わせ先：日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会 [E-mail: bunseki@jsac.or.jp]